

# 奈良県

## ナシのIPM実践指標モデル

次の管理項目や管理ポイントを例にして、地域の病害虫や雑草の防除状況に応じたモデルをつくりIPMに取り組みましょう。

管理項目	管理ポイント	取り組みの ○×チェック	
		去年は？	今年は？
せん定・整枝・ 新梢管理	樹冠内部の風通し・日当たりを良くするとともに、薬液散布における付着の死角をなくす。		
	徒長枝の管理として、芽かき、摘心、新梢管理を行う		
病害虫の伝染源 の除去	落葉やせん定枝などは園外に搬出し、土壌中に埋めるなど適切に処分する。		
	病害虫の発生した部位（枝、葉、果実、花弁など）は、除去して園外に出す。		
粗皮削り	害虫の発生源を断つため、冬季に粗皮削りを行う。		
果実への袋かけ	病害虫の加害を防ぐため、果実に袋かけする。		
収穫、貯蔵時の 取り扱い	収穫、調整時及び保管庫内では、果実を丁寧かつ適正に扱う。		
除草	種子で増殖する雑草の発生を少なくするため、結実前に除草を実施する。		
	除草剤の使用量を減らすため、刈払機や乗用モアなどで除草し、敷きくさとして利用する。		
病害虫発生予察 情報の確認	病害虫防除所が発表する発生予察情報を確認する。		

管理項目	管理ポイント	取り組みの ○×チェック	
		昨年？	今年？
要防除水準	要防除水準を利用する。防除が必要と判断された場合には、確実に防除を行う。		
生育状況・病害虫の発生状況の把握	定期的に園内を見回り、病害虫の発生状況を観察する。		
	トラップやモニタリング調査などにより、病害虫の発生状況を把握する。		
	最適防除時期を逃さないように、萌芽・開花などの状況を把握する。		
光利用技術	黄色灯を利用して、ヤガ類、カメムシ類などの飛来を抑制する。		
性フェロモン剤の利用	交信かく乱剤（性フェロモン剤）により対象害虫の発生密度を抑制する。		
天敵類の利用	園内に発生する天敵類を保護・利用して、ハダニ類やアブラムシ類を防除する。		
農薬安全使用	農薬ラベルに書かれている使用基準を守る。		
	風向きや強さに注意し、周辺に農薬を飛散させないようにする。		
	状況により、周辺農作物にも適用のある農薬を選ぶ。		
	例年の病害虫・雑草の発生状況や、病害虫発生予察情報を考慮して薬剤を選ぶ。		
作業日誌	作業内容や病害虫・雑草の発生状況のほか、農薬を使用した場合は、その名称、希釈倍数や使用量などを記録する。		
	作業日誌は、概ね3年間保管し、次作の参考にする。		
研修会等への参加	県や農協などが開催する栽培講習会、IPMや農薬安全使用に関する講習会などに、年に1回は参加する。		